



SSKW親の会だより 増刊号

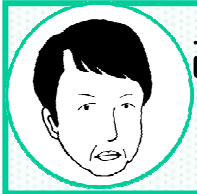
# 親の会会報 No.118

2020年9月発行



Inclusion Setagaya

世田谷区手をつなぐ親の会



## 改めて地域とのつながり

会長 渡部 伸

### コロナ禍の中で…

■世田谷区手をつなぐ親の会では、毎年春と秋に会報を発行し、会員だけではなく、区内の障害のある人に関わるみなさまに広く配布し、親の会の活動を紹介しています。

■今年も会報をお送りする時期が来しました。しかしどちらの団体も同様かと思いますが、新型コロナの感染拡大の影響で、ほとんどの活動がストップしてしまいました。そのため、今回はいつもとは大幅に異なる内容となっています。

■この会報では会員のみなさんに体験談を書いていたいただきました。知的障害者の場合、コロナ禍により、特に大きな影響を受けたのではないかと思います。就労先や通所施設がお休みになったり、余暇活動で利用しているスポーツ施設や図書館が使えなかったり、好きな電車に乗ることも自粛せざるを得なかったり…。こういった状況は一般の方も同じでしょうが、知的な障害があるために、なぜ行きたい施設に行けないのか、会いたい人に会えないのか良くわからず、精神的な不安定になった人が多くいたようです。また、苦手なマスクをしなくては行けないと言われ、パニックになってしまったという人の話も聞きました。

■もちろん、支援者の方々には大変な中で精一杯のサポートをしていただいていると思います。しかし、いつもと同じ生活が送れないことの不安はやはり大きかった。非常時には、弱い立場の人間にはより大きなしわ寄せが来るんだなと実感させられました。

■以前とまったく同じ生活に戻ることは、しばらくは考えられないでしょう。これからも障害者が地域で安心して生活するために、何が必要なのか、私たち家族はどんなことをしていけばいいのか、改めて大きな課題を突き付けられたように思います。



### 災害時の不安も…

■去年は台風で世田谷区内も大きな被害がありました。今年も大きな台風による川の氾濫のおそれがあるときに、私たちはどのような行動をとればいいのか。環境の変化が苦手な障害者が、一般の方と同じ場所に避難することはできるのか。そして三密を防がなければいけない中で、何をすればいいのか。また、家族や本人が新型コロナに感染した場合は、親と子が離れた場所で生活することができるのか。考えれば考えるほど、不安は尽きません。

■そんな中で、会員の家族や本人の不安が少しでも軽くできるように、親の会としても活動していかなければいけません。区や支援者にどんな働きかけをすればいいのか、会員にはどのような情報を伝えればいいのか。わからないことだらけですが、少しでも役に立つことを、手探りで見つけて行きたいと思います。

### 大切なのは地域とのつながり

■コロナ以前の、なにげない日常のありがたさに、改めて気づかされたこの半年でした。そして今後の不確定な生活のために大切なのは、やはり地域の中でのつながりではないかと考えています。障害のある子がいること、それぞれ異なる特性があることを多くの方が知ること、理解していただくことで、障害者は安心して地域で生活していけるのではないのでしょうか。コロナ以後の社会がどう変わろうと、私たちできることを、しっかり進めて行かなければならないと思っています。引き続きみなさまのお力添えをよろしく願いいたします。

### 親の会会報 No.118 コンテンツ

#### 特集！コロナ禍の中で (P2~6・P8)

P2~3：成人部会員（それぞれの生活風景）

P4： 教育部（アンケート調査より）

P5： 高等部（学校生活の様子）

P6： 本人たちの声（アンケート形式）

Setagaya アミーゴ役員・運営委員

P7： （一社）つながりラボ世田谷

第1回権利擁護勉強会

P8： 支援者の立場より（施設の様子）

上町工房施設長斉藤由子氏からのメッセージ